

西郷村行政評価

令和5年度 〔令和4年度
実施事業分〕
外部評価報告書

令和5年10月

西郷村行政評価推進委員会

はじめに

西郷村では、平成29（2017）年度からの10年間を計画期間とした「第四次総合振興計画」を定め、『人と自然が輝き笑顔を未来へつなぐ「さわやか高原公園都市」にしごう』を将来像とする政策・施策体系が構築されました。

第四次総合振興計画の進行管理においては、個別の事務事業を中心とした事務事業評価から、「施策が効率的・効果的なのか」を評価する行政評価制度が導入されたところです。

第四次総合振興計画初年度である平成29年度は施策の内部評価を試行的に行い、平成30（2018）年度から第三者の視点からの評価及び意見を聴取することにより、施策評価の客観性と透明性を高めることを目的に外部評価が導入されました。

外部評価の実施にあたっては「村の実施する行政評価について調査審議し、村長に改善案等の助言を行う」専門の機関として、令和2（2020）年度から西郷村行政評価推進委員会が設置されました。

外部評価の方法は各自治体で様々であり、委員会としては村と連携し試行錯誤を重ねながら検討してまいりました。各委員の専門性や経験、見識等を踏まえながら、積極的な議論を重ね、更には施策を評価するにあたっては、担当課のヒアリングを行い、効果性や必要性、公平性等を中心に評価及び検証を進めています。

本報告書は、行政評価の目的である「事務事業の改善」、「行政の説明責任の向上」、「職員の意識改革」を達成するために、令和4（2022）年度に村が実施した各施策の評価について、西郷村行政評価推進委員会での議論の結果をまとめたものです。

令和2年以降、猛威を振るう新型コロナウイルス感染症ですが、今年5月に感染症の分類が5類に移行されました。評価対象の令和4年度においては、行動の規制も大分緩和されましたが、コロナ禍前の生活にはまだ戻れていない状況です。

事態の早期収束を願うばかりですが、こういった事態への対応や考え方、また今回の評価や見直しの経験は今後の事業推進において大きな糧になることと思います。

評価にあたり資料提出やヒアリングに対応していただいた職員の皆様に対し、委員一同感謝申し上げますとともに、村民の幸福と村の発展のため、この内容を真摯に受け止め、施策展開や事務事業等の見直しに活用する中で、常に村民の立場に立ち村政運営に尽力されることを期待いたします。

令和5年10月 委員一同

目次

1. 外部評価の概要	1
(1) 行政評価の目的	1
(2) 外部評価の位置づけ	1
(3) 評価全体の流れ	2
2. 外部評価結果	8
(1) 基本施策の個別評価結果	8
基本施策 1-3 子育て支援の充実	8
基本施策 2-3 教育環境の整備	9
基本施策 3-1 農林業の振興	10
基本施策 4-1 道路・公共交通の整備	11
基本施策 5-3 高齢者福祉の充実	12
基本施策 6-1 自然環境の保全	13
基本施策 7-1 防犯対策・消防体制の充実	14
基本施策 8-2 持続可能なむらづくりの推進	15
(2) おわりに【総評】	16

資料

○西郷村行政評価推進委員名簿	17
○西郷村行政評価推進委員会（外部評価）の開催経過	17
○平成30年度～令和5年度 外部評価結果一覧表	18
○令和5年度（令和4年度実施分）基本施策評価シート（西郷村提供資料）について	19
・基本施策評価シート	20

1. 外部評価の概要（令和4年度基本施策及び事務事業の外部評価）

（1）行政評価の目的

①事務事業の改善

P D C Aサイクルに基づき、事業の目指すべき成果がどの程度達成されているかを検証することで、継続的に事業の改善を図りながら、成果重視の行政運営を推進します。

②行政の説明責任の向上

村民に対し、評価結果を公表することにより、行政活動の目的、達成目標、評価情報、行政の透明性と村の説明責任を向上させ、行政に対する村民の理解を深めてもらい、村民との協働に取り組む行政運営を推進します。

③職員の意識改革

行政活動の成果や達成度、要した費用などを明らかにすることにより、行政運営に経営感覚を取り入れ、職員一人一人の目的意識、コスト意識等の意識改革を図るとともに、評価結果を行政活動の見直しや新たな企画立案に反映させるなど、政策形成能力の向上を図ります。

（2）外部評価の位置づけ

行政評価における客観性及び透明性をより向上させるため、P D C Aサイクルに基づき、学識経験者および住民により構成される「西郷村行政評価推進委員会」により、行政の内部による行政評価の結果を、外部（第三者）からの視点で再評価し、業務の見直し等について村へ助言を行います。

・ P D C Aサイクル



(3) 評価全体の流れ

【内部評価（職員評価）】

- ① 事務事業評価（担当評価）…定性評価・定量評価
- ② 事務事業評価（1次評価）…事業の方向性・予算の方向性・次年度以降の取組等
- ③ 事務事業評価（2次評価）…事業の方向性・予算の方向性・改善点等
- ④ 基本施策評価（総合評価）…個別施策の評価、全体総括、総合評価

【外部評価（委員会評価）】

- ⑤ 評価対象施策の選定…28の基本施策から委員会で選定
- ⑥ 事前質問・ヒアリング…内部評価の結果等の資料を基に、村に事前質問・ヒアリングを行い回答を求める
- ⑦ 評価調書の作成（各委員）…評価区分に基づき各委員毎に評価調書を作成
- ⑧ 報告書の作成…報告書を村へ提出

【内部評価（職員評価）】

① 事務事業評価（担当評価）

○ 定性評価

担当により、数値などの明確な実績や成果では表せない次の5点について、事務事業毎に評価を行います。

- ・必要性…行政関与や住民ニーズ等の変化により、村が事業を実施する必要はあるか。

└ 住民ニーズは大きいか／行政で実施するのが妥当か。

- ◇ 評価区分 A：必要性が高い
- B：ある程度必要と認められる
- C：必要性は低い
- －：評価できない、または評価する必要がない

- ・達成度…事業実施により意図した成果（定量評価から検証）が得られているか。

└ 指標が達成されたことで、事業成果は上がっているか。

- ◇ 評価区分 A：活動指標の目標を達成し、成果が上がっている
- B：活動指標の目標は達成したが、成果は上がっていない
- C：活動指標農目標は未達成で、成果も上がっていない
- －：評価できない、または評価する必要がない

- ・効率性…事業手法の検討や事務改善により、事業の効率化・事業費の削減が可能か。

└ 執行に無駄が生じていないか／経費に見合った成果が期待できるか。

規模は適切であるか。

- ◇ 評価区分 A：見直す余地はない
- B：どちらとも言えない
- C：見直す余地がある
- －：評価できない、または評価する必要がない

- ・公平性…社会情勢やニーズ等の環境変化や他の自治体との比較により、事業規模やサービス水準（受益者の範囲・サービスの内容）は見直しが可能か。

↳費用負担は公平か／受益に対する負担は適切か。

- ◇評価区分 A：偏りはみられない
B：どちらとも言えない
C：偏りがある
－：評価できない、または評価する必要がない

- ・緊急性…社会情勢や環境変化等により事業の目的、必要性は薄らいでいないか。

↳事業の緊急性はあるか。

- ◇評価区分 A：緊急性が高い
B：緊急性に関わらず実施が必要
C：緊急性は低い
－：評価できない、または評価する必要がない

○定量評価

事務事業の実績から計測されるデータ（数値）により、状況の変化を見出したり、変化の程度を見定めたりするために用いられ、個々の事務事業の進捗や成果を客観的に表します。

②事務事業評価（1次評価）…担当課長評価

定性評価、定量評価を踏まえ、次年度以降の事業の方向性、及び予算の方向性について評価を行います。また、問題点・課題等があれば、次年度以降の改善策を検討します。

- | | | |
|-------|---------|--------|
| ◇評価区分 | 事業の方向性 | 予算の方向性 |
| | A：拡大・拡充 | A：拡大 |
| | B：現状維持 | B：現状維持 |
| | C：縮小 | C：縮小 |
| | D：休止・廃止 | |
| | E：完了 | |

③事務事業評価（2次評価）…総務課長、財政課長、企画政策課長評価

定性評価、定量評価、1次評価結果を踏まえ、次年度以降の事業の方向性と、予算の方向性を、労務費、事業費、政策面からそれぞれ判断し、改善点や是正すべき内容を付して評価を行います。

- | | | |
|-------|---------|--------|
| ◇評価区分 | 事業の方向性 | 予算の方向性 |
| | A：拡大・拡充 | A：拡大 |
| | B：現状維持 | B：現状維持 |
| | C：縮小 | C：縮小 |
| | D：休止・廃止 | |
| | E：完了 | |

④基本施策評価（総合評価）…1次、2次評価総括

○個別施策の評価…事務事業評価の結果を踏まえ、基本施策に属する個別施策の今後の取り組みの方向性について、次の4段階で評価します。

◇評価区分 拡大・拡充
維持・継続
縮小・統合
次年度以降検討

○全体総括…個別施策の評価を踏まえ、基本施策の考察、今後の方向性、見直しの方（2次評価） 向性等を記載します。

○総合評価…個別施策の評価および全体総括を踏まえ、次の3段階で評価します。

評価区分 A：目標に向け順調に進んでいる
B：目標に向けある程度進んでいる
C：縮小・統合

【外部評価（委員会評価）】

⑤評価対象施策の選定

評価対象の選定については、本委員会ですべての施策の評価を単一年度で行うことが困難であるため、行政評価基本方針に基づき第四次総合振興計画に掲げる8つの基本目標からそれぞれ1基本施策を外部評価委員会において抽出し、8基本施策を対象に実施いたしました。

なお、令和5年度外部評価の対象として選定した基本施策は、次頁「評価対象施策一覧」のとおりです。

・評価対象施策一覧

基本目標 (分野)	施策 コード	基本施策名	担当課 関連課名	評価実施年度					
				H30	R1	R2	R3	R4	R5
1. 希望に満ち、子どもたちが健やかに育つむらづくり (子ども・子育て・少子化対策)	1-1	母子保健の充実	福祉課 健康推進課			○		○	
	1-2	幼児期の教育・保育の充実	福祉課 学校教育課		○		○	○	
	1-3	子育て支援の充実	福祉課 企画政策課	○				○	○
2. 自らを高め、共によりよく生きるむらづくり (教育・文化・スポーツ)	2-1	学校教育の充実	学校教育課		○			○	
	2-2	家庭・地域の教育力向上	学校教育課 生涯学習課			○		○	
	2-3	教育環境の整備	学校教育課	○				○	○
	2-4	生涯学習の推進	生涯学習課			○		○	
	2-5	スポーツの推進	生涯学習課				○	○	
	2-6	芸術・文化の振興	生涯学習課				○	○	
3. 活力ある、交流とふれあいのむらづくり (産業・観光・交流)	3-1	農林業の振興	産業振興課 農業委員会事務局	○				○	○
	3-2	商工業の振興	産業振興課			○	○	○	
	3-3	観光・交流の活性化	産業振興課 企画政策課	○	○			○	
4. 快適に暮らし、利便性の高いむらづくり (都市基盤)	4-1	道路・公共交通の整備	建設課 企画政策課	○				○	○
	4-2	上下水道の整備	上下水道課			○		○	
	4-3	住環境の整備	建設課 企画政策課 住民生活課		○			○	

基本目標 (分野)	施策 コード	基本施策名	担当課 関連課名	評価実施年度					
				H30	R1	R2	R3	R4	R5
5. 自分らしく生き、笑顔があふれる むらづくり (保健・医療・福祉)	5-1	健康づくりの推進	健康推進課		○			○	
	5-2	医療の充実	健康推進課 住民生活課			○		○	
	5-3	高齢者福祉の充実	健康推進課 生涯学習課	○				○	○
	5-4	障がい者(児)福祉等の充実	福祉課				○	○	
	5-5	地域福祉の充実	福祉課 健康推進課				○	○	
6. 自然と共生し、 環境にやさしいむらづくり (環境保全)	6-1	自然環境の保全	環境保全課		○			○	○
	6-2	循環型社会の推進	環境保全課	○			○	○	
	6-3	エネルギー対策の推進	環境保全課 防災課			○		○	
7. 安全が守られ、 災害に強いむらづくり (防犯・防災)	7-1	防災対策・消防体制の充実	防災課	○			○	○	○
	7-2	防犯・交通安全の推進	防災課 住民生活課		○			○	
	7-3	原子力災害対策の推進	環境保全課 産業振興課	評価対象外					
8. 共に考え、協働するむらづくり (行財政運営)	8-1	協働によるむらづくりの推進	総務課 企画政策課		○			○	
	8-2	持続可能なむらづくりの推進	全課	○				○	○

※基本施策コード7-3原子力災害対策の推進については、災害復旧費のため評価対象外としております。

⑥事前質問・ヒアリング

基本施策の評価にあたっては、村が実施した内部評価結果「施策評価シート」(※参考資料として巻末に添付)のほか、「個別事務事業評価シート」を確認し、疑問点や確認したい内容について事前質問を行いました。

その後、事前質問の回答を受けた上で、担当課を招集しヒアリングにより詳細を確認しながら評価を進めました。

⑦評価調書の作成（各委員）

内部評価結果、事務事業評価シート、および事前質問回答書を基に、「施策の指標・目標値の妥当性、内部評価への指摘」「総合評価」及び「提言等」について、それぞれ委員毎に評価調書を作成し、意見を集約し報告書に記載しています。

○施策の指標・目標値の妥当性、内部評価への指摘

各施策における指標、目標値の妥当性の検証、及び内部評価に対する指摘事項について記載しています。

○総合評価

外部評価を行う上で、次の点に着眼し第三者の視点を持って、基本施策の取組を検証し総合的に評価しています。

- ・住民に求められている施策であるか。
- ・村が単費を投入して行うべき施策か。
- ・事業の目的が効果的に達成されているか。
- ・目的達成のために、他に効率的な方法がないか。
- ・投入コストに見合った効果、成果が得られているか。

上記の観点から基本施策の取組を検証し、下表の区分により総合評価を行いました。

基本施策 総合評価 評価区分
A：計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B：ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C：目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D：目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。

委員会報告書に記載の評価区分の決定にあたっては、各委員の評価結果から最も多かった評価区分を基本評価としておりますが、本報告書「総合評価の理由等」の欄では、各評価区分にそれぞれ「+」、「-」を付して、より細分化した標記をしています。

- 「+」…評価件数が最も多い区分を基準とし、基準より上位の評価が2つ以上含まれる
「-」…評価件数が最も多い区分を基準とし、基準より下位の評価が2つ以上含まれる

○外部評価からの提言等

施策展開や事務事業等の見直し、次年度以降の計画、予算への反映を通じて村の行政運営の改善に役立てていただけるよう、基本施策とそれを構成する事務事業の関連性や、評価から一步踏み込んだ内部評価の進め方や事務事業の取組に対する指摘事項、意見や提案等を含めた提言について取りまとめています。

2. 外部評価結果

(1) 基本施策の個別評価結果

基本目標	1	希望に満ち、子どもたちが健やかに育つむらづくり
基本施策	1-3	子育て支援の充実
主担当課名	福祉課	
関連課名	企画政策課	
① 施策の指標・目標値の妥当性、内部評価への指摘		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、点検の結果、改善の必要があると判断する。次の点に留意し次年度以降対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児医療費助成および児童費児童手当費、児童医療費助成、ひとり親家庭医療費について施策の指標の見直しが必要である。 ・対象者の推移が提示されていない、予算のみ提示されても検討しづらい。 		
② 総合評価（必要性、妥当性、達成度、効率性の観点を踏まえた評価）		
A	○	計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B		ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等		<p>●施策の進捗としては「A」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に必要性・公平性・緊急性の高い事業を行っている。 ・子育て世代には必要な項目なので、事業継続・推進すべき。 ・出会いの場創出事業以外はおおむね目標値を達成している。
③ 外部評価からの提言等		
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉課、生涯学習課、学校教育課、健康推進課等が連携して、幼児、児童、生徒と高齢者の交流の機会を設けるなど、子どもたちの健全育成と高齢者の生きがいづくりの推進が同時に図れる横断的な事業等を検討されたい。 ・出会いの場創出事業については、社会貢献イベントへの参加など、従来の婚活事業のほか、新たなイベントも検討するとともに、効果的な周知方法の検討に努められたい。 ・児童虐待防止対策事業のニーズは高く人員拡充が必要である。また、児童虐待を防止・抑止するという観点から、児童虐待を発見した時や疑いを持った際の対応方法について村民に周知されたい。 		

基本目標	2	自らを高め、共によりよく生きるむらづくり
基本施策	2-3	教育環境の整備
主担当課名	学校教育課	
関連課名		
① 施策の指標・目標値の妥当性、内部評価への指摘		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、点検の結果、改善の必要があると判断する。次の点に留意し次年度以降対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT環境が整備されたので、各学校での利活用に関する指標があった方が良いのではないかな。 ・より安心して安全なための施設整備についての評価はほぼA評価となっているが、具体的な指標が定まっていないので評価しにくい。 		
② 総合評価（必要性、妥当性、達成度、効率性の観点を踏まえた評価）		
A	○	計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B		ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等		<p>●施策の進捗としては「A-」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に必要性・公平性・緊急性の高い事業を行っている ・学校給食センターも完成し、環境整備が進んだ。 ・教育環境すべてにおける整備は、地域にとっても重要なことであり、今後とも様々な施策のもと進めていただきたい。 ・家庭の経済的負担の軽減に、祝い金・修学旅行費補助と手厚くなっている。
③ 外部評価からの提言等		
<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域移行については、指導者や協力者に対し、有償ボランティア制度の創設を検討されたい。 ・ひとり親家庭等を対象とした給付型奨学金制度の創設を検討されたい。また、奨学金を必要としている家庭に情報が伝わるよう、ホームページや@InfoCanal(※1)、学校等での周知に努められたい。 ・児童、生徒が、これからの時代を生き抜く力（お金や保険、性教育、多様性等、生きていくために必要な知識）を育成する学習を教育課程に取り入れていただきたい。 ・夏休み中の学校プールの管理は、担当職員および保護者にとって重責であり負担が大きい。気温が高すぎてプール授業が行えないという今夏の猛暑も考慮すれば、今後は村民屋内プールの利活用を検討されたい。 		

※1 @InfoCanal…携帯電話やインターネットなどの通信網を利用し、スマートフォンやタブレット等に行政情報や災害情報等の配信を行うシステム。

基本目標	3	活力ある、交流とふれあいのむらづくり
基本施策	3-1	農林業の振興
主担当課名	産業振興課	
関連課名	農業委員会事務局	
① 施策の指標・目標値の妥当性、内部評価への指摘		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、点検の結果、改善の必要があると判断する。次の点に留意し次年度以降対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環型農業の推進項目（指標）は設けてあるが、ふさわしい目標値ではない。 ・直売所出品者、販売金額ともに目標値をはるかに超えている、目標値を再考すべき。 		
② 総合評価（必要性、妥当性、達成度、効率性の観点から踏まえた評価）		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等		<p>●施策の進捗としては「B」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規農業者など、高齢化対策が目標値に達していない。 ・直売所に関すること以外の達成度が年々低くなっている。
③ 外部評価からの提言等		
<ul style="list-style-type: none"> ・西郷村土地改良区運営事業および小規模道水路整備事業について、受益を受ける農業者や農業団体は限られるため、受益者負担について検討されたい。 ・農業を産業として捉えるのではなく、暮らしの中に農を取り入れる施策をつくることを勧めたい。第一に、西郷村の各集落において土地利用計画を立て、耕作放棄地や空き家の使い方を集落全体で考え実践に移すこと。集落の活動を補助する制度として、農水省には農村集落活性化支援事業、福島県には集落支援に活用できるサポート事業がある。こうした制度を積極的に活用していく必要がある。第二に、移住者支援に農的な生活を普及する施策を入れることを勧めたい。 ・関係部署が連携し村内の空き家や村有財産を有効に活用するなど、新規就農者の確保に努められたい。 ・地球温暖化による自然災害に備えた農業や将来に向けて西郷の地域に適応する作物の栽培など準備しなくてはならないと考える。効率的で環境・生物多様性に極力影響のない基盤整備、有機農業などを推進していただきたい。 ・耕作放棄地を活用して、体験型の「山村留学」のような取り組みも検討されたい。 ・大規模農家への補助ばかりでなく、中小農家も考慮されたい。 ・高齢化が進んでいる農林業においては、若者が親元で就農研修を受け即戦力となること、先の経営を若者視点で考えられることが、より良い農林業の経営継承に繋がると期待できる。このため他市町村でも実施している「親元就農支援金制度」等の施策を村独自で検討されたい。 ・福島県の農産物等をPRしてくれている TOKIO、TOKIO-BA との連携を図られたい。 		

基本目標	4	快適に暮らし、利便性の高いむらづくり
基本施策	4-1	道路・公共交通の整備
主担当課名	建設課	
関連課名	企画政策課	
① 施策の指標・目標値の妥当性、内部評価への指摘		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、点検の結果、概ね妥当であると判断する。 しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バス利用者数については、減少傾向が顕著であり、今後、目標値として設定するのは無理があるのではないか。 		
② 総合評価（必要性、妥当性、達成度、効率性の観点を踏まえた評価）		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等		<p>●施策の進捗としては「B+」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要性・公平性・緊急性の高い施策であるが、効率性の観点からみると、見直しが必要な事業がある。 ・道路整備については、パトロールの実施により速やかに補修、維持管理できているが、公共交通の確保については、早急に検討しなければならない。
③ 外部評価からの提言等		
<ul style="list-style-type: none"> ・大型ダンプや大型トラック等の通行量が多い道路については、重点的に道路パトロールを行い、道路の異常の把握や応急措置等を早急を実施し適切な管理に努めてほしい。 ・デマンド交通と生活路線バスについて、運行状況などをホームページでわかりやすく掲載していただきたい。 ・デマンド交通や生活路線バスをより良い形で運営できるよう、学生や利用者以外の方を対象としたアンケート調査も行い、利便性の高い交通システムの構築を推進されたい。 		

基本目標	5	自分らしく生き、笑顔があふれるむらづくり
基本施策	5-3	高齢者福祉の充実
主担当課名	健康推進課	
関連課名	生涯学習課	
① 施策の指標・目標値の妥当性、内部評価への指摘		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、点検の結果、改善の必要があると判断する。次の点に留意し次年度以降対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「要支援・要介護認定率」より「認定されていない割合」とした方が指標の達成度としては評価しやすいと思う。 ・実績がない指標については見直しが必要。 ・健康寿命を伸ばす取り組みに対する指標がもっとあってもよいのではないか。 		
② 総合評価（必要性、妥当性、達成度、効率性の観点を踏まえた評価）		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等		<p>●施策の進捗としては「B+」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部評価は全体的に低い評価をしているものの、必要性の高い事業が多いと考える。 ・要支援、要介護認定率については目標値達成できている。地域包括ケア担い手育成については見直しが必要。
③ 外部評価からの提言等		
<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に、内部評価（担当課評価）が低い。事業の目的、効果を整理し次年度の改善策を検討すること。 ・健康体操などは、各地区のコミュニティーセンター等を利用し、行政区単位で実施出来るよう検討されたい。 ・介護予防運動のインストラクターや傾聴ボランティアなどの育成は、認定制度の創設やボランティアの有償化など継続させるための仕組みづくりを検討すること。 ・高齢者人口の増加が進む中で、地域での高齢者と子供たちとの交流など、元気で暮らせるための予算を設定しては如何か。福祉課や学校教育課などと横軸連携で支え、民生委員にも有償で参加していただき「元気に暮らす予算」を検討されたい。（横の連携により1つの予算で多方面に効果が生まれる。西郷村ではそれが必要と強く感じる。） ・支える側（在宅介護者等）を支える事も必要である。支えられる側（要介護者等）、支える側、それぞれが抱える問題について認識を深め、問題解決に向けた支援を検討されたい。 		

基本目標	6	自然と共生し、環境にやさしいむらづくり
基本施策	6-1	自然環境の保全
主担当課名	環境保全課	
関連課名		
① 施策の指標・目標値の妥当性、内部評価への指摘		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、点検の結果、改善の必要があると判断する。次の点に留意し次年度以降対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の保全の指標に、「一斉清掃に参加した人数」では相応しくない。赤面山植林事業、特定外来生物駆除事業、河川水生生物調査、田んぼの生き物調査など村民主体の事業に目を向けるべき。環境保護活動の団体数などを指標にして良いのではないか。 		
② 総合評価（必要性、妥当性、達成度、効率性の観点を踏まえた評価）		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等		<p>●施策の進捗としては「B-」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成度の面から見ると、目標値に達していない事業があり、中には目標値が高く設定されている事業もある。不法投棄監視事業および特定外来生物駆除事業については村民からのニーズが高いようなので、達成度を上げていくことが求められる。
③ 外部評価からの提言等		
<ul style="list-style-type: none"> ・大規模太陽光発電施設が既に西郷村土の約5%を超えている。森林伐採などによる自然災害に対応できているのか等、村民から不安の声が聞かれる。大規模太陽光発電施設の開発に伴う災害等への対応について村民に周知を図られたい。 ・特定外来生物について、一部の方々は危機感を持っているが、村民の多くは特定外来生物への関心は薄いと考えられる。自然環境を守っていくためにも特定外来生物とそれらが及ぼす被害や影響について、村民への周知を図られたい。 ・西郷村の美しい自然環境を守る目的や活動など自然環境の保全の大切さを広く知ってもらうため、ホームページや広報誌等で周知を図られたい。（一斉清掃の様子、特定外来生物が及ぼす影響、森林の大切さなど） 		

基本目標	7	安全が守られ、災害に強いむらづくり
基本施策	7-1	防災対策・消防体制の充実
主担当課名	防災課	
関連課名		
① 施策の指標・目標値の妥当性、内部評価への指摘		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、点検の結果、概ね妥当であると判断する。 しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災行政無線がデジタル化したのであれば、それを指標からはずし、情報伝達が行き届いているか否かを新たな指標としてはどうか。 		
② 総合評価（必要性、妥当性、達成度、効率性の観点から踏まえた評価）		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等		<p>●施策の進捗としては「B+」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に必要性・公平性・緊急性の高い事業を行っている。 ・防災対策・消防体制は目標値 100%を目指すべき。 ・消防団員数の減少傾向、消防力充足率の目標未達など、消防団のなり手不足や活動のあり方も含め、改善すべき点は多い。
③ 外部評価からの提言等		
<ul style="list-style-type: none"> ・ポンプ操法大会については、練習等が団員の負担になっていると聞く。消防団および村民のニーズを調査し継続もしくは廃止するかを検討いただきたい。 ・災害等に備えた村の備蓄状況や、各家庭の備蓄量の目安などについて周知を図られたい。 ・高齢者がいる家庭で、家族が@InfoCanal のアプリを入れていたとしても、日中独居になる世帯では意味がない。また、電話配信で情報を受け取る家庭では、電話に出なければ情報を得ることができない。家庭の状況は様々であるが、村民がもれなく緊急情報をキャッチできるようにしなければならない。個別受信機貸与の要件に該当しない世帯であっても、状況により個別受信機を貸与されたい。 ・ハザードマップは各家庭に配布されているが、理解できていない村民がいる。理解を深めるため各地区公民館等で説明会を開催すべきである。 ・消防団員加入促進のためにはホームページを活用して団員の活動内容を知ってもらうことが重要である。男女問わず団員になれる事も広く周知し、女性団員の増加に努められたい。 		

基本目標	8	共に考え、協働するむらづくり
基本施策	8-2	持続可能なむらづくりの推進
主担当課名	全課	
関連課名		
① 施策の指標・目標値の妥当性、内部評価への指摘		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、点検の結果、概ね妥当であると判断する。 しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政的な、いわゆる数字上での指標の目標値、達成度では基本目標のとらえ方とは合わないと思う。もっと具体的な指標を掲げてほしい。 		
② 総合評価（必要性、妥当性、達成度、効率性の観点を踏まえた評価）		
A	○	計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B		ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等		<p>●施策の進捗としては「A-」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要性、妥当性は問題なく、指標値に対する実績、達成度がいずれも高い。 ・諸政策の見直しをもっと大胆にやって、統合できる事業は課を超えて連携して取り組み、費用対効果を上げて頂きたい。
③ 外部評価からの提言等		
<ul style="list-style-type: none"> ・行政評価・行政改革については、事業効果や効率性を高めるために、職員の勉強会等を実施されたい。 ・公共料金管理費では、すべての施設において電気料金の高騰により電気使用料が増えている。光熱費の高騰は今後も続くと考えられるため、経費の削減に努め健全な財政運営に努められたい。 ・職員の仕事への意欲的取り組み等について評価をすることや、専門性を持つ職員の登用が必要である。また、職員で解決できないことは、外部専門家を活用すべきである。 ・新庁舎建設事業のスタートや新給食センターの完成と大規模な財政支出が続くが、学校校舎の老朽化も著しく改築や大規模改修等の検討が必要である。学校の改築計画等については、将来を見据え児童生徒数を考慮し、統廃合も踏まえて検討されたい。 ・ふるさと納税について、西郷村の魅力を打ち出せるような返礼品を取り揃えてほしい。直接、西郷村の良さに触れ、自然を満喫できる「体験型」の返礼品について拡充されたい。 ・村のホームページについて、動きがあって、見やすく、興味がわき、見たくなる、もっと魅力のあるデザインとされたい。（特に、新着や Pickup 等は、ひと目見て分かりやすい場所への配置を望む） ・村の重要な計画を策定される際には、各種施策が他の分野とも有機的に連携し合うよう、専門家を入れて策定していただきたい。 		

(2) おわりに【総評】

本報告書は、2017年度に策定された第四次総合振興計画の施策に対して、西郷村行政評価推進委員会による外部評価の結果を報告するものです。2023年度は、過去の行政評価の結果や、第四次総合振興計画の主要施策の進捗などを考慮して、優先度の高い施策を8つ選び外部評価を実施いたしました。

これらの施策に対する西郷村行政評価推進委員会の総合評価は、最高で「A」、最低で「B-」と比較的高い評価となりました。AおよびBは、事業の見直しは求めず、継続して事務事業を推進するという評価になります。ただし、課題や改善点がないわけではありません。委員からは、施策の目標値について見直しを求める指摘や、施策に対する提案が多数挙げられましたので、これらの指摘や提案を来年度の予算や事業に反映していただきたいと思いません。

行政評価はアメリカではじまり、世界各国において普及しています。OECD(※1)は、地方政府を含むあらゆる政府に対してオープンガバメントを推奨しています。オープンガバメントは、透明性、説明責任、市民参加という原則に即した実践および、革新的で持続可能な公共政策によって成り立つガバナンス(※2)のことです。オープンガバメントによって、地域における民主主義が実現されます。また、環境被害や経済格差などを生み出さずに、誰もが成長の恩恵を受けることができる包括的な成長が、地域にもたらされるとしており、オープンガバメントを実現するためには行政評価が必要不可欠とされています(OECD, Open Government—The Global Context and The Way Forward, 2016)。

日本では、1990年代半ばに三重県をはじめ複数の自治体によって行政評価が導入されました。2001年6月に中央省庁に政策評価制度を導入する「行政機関が行う政策の評価に関する法律」が制定されたことを契機に、自治体に広く普及しました。行政評価の導入率をみると、自治体規模によって異なり、2016年10月現在において、都道府県では100%、指定都市では95%、市区では83.5%、町村では38.9%となっています(総務省自治行政局「地方公共団体における行政評価の取組状況等に関する調査結果」2017年6月)。

西郷村では2018年に行政評価を開始しました。西郷村では人口や税収が増えており、行政評価の必要性がより一層高まっていると思います。移住者の増加や時代の変化などともない、住民のニーズが多様化しています。税収の増加にともなう村単独の事業も増えてきました。行政の施策や事業の目的が、住民ニーズに対応できているかを確認し、公平性や効率性などの観点において適切に運用できているか評価し改善を図っていくことが重要です。行政評価を続けていくためには、内部評価や本委員会から指摘がありましたように、指標の見直し、行政評価の結果を予算や事業に反映、行政評価事務の効率化、といった課題を解決していく必要があります。国内外における行政評価の先進事例を参考にして、よりよい行政評価の仕組みをつくっていただきたいと思いません。

最後に、行政評価にご協力いただいた職員みなさんに感謝します。民主主義を強化し、住民にとって暮らしやすい西郷村を実現するために、より一層ご尽力いただけますようお願いいたします。

西郷村行政評価推進委員会

※1 OECD…経済協力開発機構。日・米を含め38か国が加盟。より良い暮らしのため、あらゆる人々の繁栄、平等、機会、幸福を促す政策の構築に取り組む国際機関。

※2 ガバナンス…「統治・支配・管理」を意味し公正な判断、運営がなされるよう、監視・統制する仕組み。オープンガバメントは住民が行政に関与し、透明性のある政策を実現するもの。

資料

○西郷村行政評価推進委員会委員名簿

任期 自：令和 5年 8月 3日

至：令和 7年 8月 2日

	委員氏名	備考
1	藤原 遥	会長
2	居川 孝男	職務代理者
3	大越 則恵	
4	田邊 敏捷	
5	勝又 千賀子	
6	菊地 幹雄	
7	島田 弘美	
8	庄司 実野里	

○西郷村行政評価推進委員会（外部評価）の開催経過

会議	開催日	内容
第1回	令和5年8月3日（木）	<ul style="list-style-type: none"> 外部評価対象事業の選定について 外部評価の実施方法について
	令和5年8月7日（月） ～令和5年8月21日（月）	<ul style="list-style-type: none"> 外部評価実施に伴う事前質問について
第2回	令和5年9月7日（木）	<ul style="list-style-type: none"> 外部評価の進め方について 外部評価の実施（ヒアリング形式）
	～令和5年9月20日（水）	<ul style="list-style-type: none"> 外部評価シートの作成
第3回	令和5年10月3日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 外部評価報告書（案）について
第4回	令和5年10月17日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 外部評価報告書の決定 評価結果について（報告書提出）

○平成30年度～令和5年度 外部評価結果一覧表

No.	基本目標	施策コード	基本施策名	担当課	関連課		外部評価結果						
							H30	R1	R2	R3	R4	R5	
1	希望に満ち、子どもたちが健やかに育つむらづくり	1-1	母子保健の充実	福祉課	健康推進課			B+		A-			
2		1-2	幼児期の教育・保育の充実	福祉課	学校教育課			C		B-	B		
3		1-3	子育て支援の充実	福祉課	企画政策課			B			A-	A	
4	自らを高め、共によりよく生きるむらづくり	2-1	学校教育の充実	学校教育課				B			B		
5		2-2	家庭・地域の教育力向上	学校教育課	生涯学習課					B-	B		
6		2-3	教育環境の整備	学校教育課				B			A-	A-	
7		2-4	生涯学習の推進	生涯学習課						B+		B	
8		2-5	スポーツの推進	生涯学習課							B-	B	
9		2-6	芸術・文化の振興	生涯学習課							B	B	
10	活力ある、交流とふれあいのむらづくり	3-1	農林業の振興	産業振興課	農業委員会事務局			B			B-	B	
11		3-2	商工業の振興	産業振興課						C+	B-	B	
12		3-3	観光・交流の活性化	産業振興課	企画政策課			B	C			C+	
13	快適に暮らし、利便性の高いむらづくり	4-1	道路・公共交通の整備	建設課	企画政策課			B			B	B+	
14		4-2	上下水道の整備	上下水道課						B+		A-	
15		4-3	住環境の整備	建設課	企画政策課	住民生活課			B			B	
16	自分らしく生き、笑顔があふれるむらづくり	5-1	健康づくりの推進	健康推進課				B			A-		
17		5-2	医療の充実	健康推進課	住民生活課					B+		B	
18		5-3	高齢者福祉の充実	健康推進課	生涯学習課			B				B	B+
19		5-4	障がい者(児)福祉等の充実	福祉課								B-	B
20		5-5	地域福祉の充実	福祉課	健康推進課						B	C+	
21	自然と共生し、環境にやさしいむらづくり	6-1	自然環境の保全	環境保全課				B			B	B-	
22		6-2	資源循環型社会の推進	環境保全課				B			C+	C	
23		6-3	エネルギー対策の推進	環境保全課	防災課						B-		B
24	安全が守られ、災害に強いむらづくり	7-1	防災対策・消防体制の充実	防災課				B			B	B	B+
25		7-2	防犯・交通安全の推進	防災課	住民生活課				B			A-	
26		7-3	原子力災害対策の推進	環境保全課	産業振興課			対象外					
27	共に考え、協働するむらづくり	8-1	協働によるむらづくりの推進	総務課	企画政策課				B			B	
28		8-2	持続可能なむらづくりの推進	全課								A-	A-

※外部評価結果（R2年度以降の外部評価では、4段階評価にプラスマイナスを付して細分化）
評価基準は報告書7ページを参照。

○令和5年度（令和4年度実施事業分）基本施策評価シートについて

行政評価推進委員会が実施した外部評価では、担当課へ質問シートにより不明点等を確認したほか、西郷村が実施した内部評価（施策評価）の結果を参考に施策評価を行ないました。

ホームページ等により本報告書が公表されることとなりますが、村民の皆様からは行政評価推進委員会において実施した外部評価の妥当性について判断が出来ないという意見もありました。

このため、本委員会が評価の参考として村から提示された資料を、巻末に添付させていただきました。

**令和5年度（令和4年度実施事業分）
基本施策評価シート
（西郷村提供資料）**

・記載事項説明（令和4年度基本施策評価シート）

基本目標	当該基本施策が含まれる基本目標を記載しています。	主担当課	当該基本施策に対する事務事業を所管する主担当課及び関連課を記載しています。
施策コード	基本施策コード、名称を記載しています。	関連課名	
基本施策			

現状と課題	当該施策における西郷村の現状と、課題について記載しています。西郷村第四次総合振興計画に起債の内容と同様です。
-------	--

指標名	単位	初期値 (H27)	H29	H30	R元	R2	R3	R4
		目標値						
実績								
達成度								
前期基本計画で掲げたむらづくり指標を記載しています。このしひょうにより、本施策の進捗を把握します。	目標値	初期値 西郷村第四次総合振興計画(前期基本計画)に記載。前期基本計画策定時点で、収集可能な最新値を初期値としています。	H29～R4 目標値・実績 各年度における目標値および実績。新たに、令和4年度の実績を追加。	達成度 西郷村第四次総合振興計画(前期基本計画)で掲げた各目標値に対する達成率。				
	実績							
	達成度							
既に、目標を達成している指標や、本施策の進捗を表すのに適していない指標などについては、後期基本計画で見直しを図っています。	目標値							
	実績							
	達成度							
令和4年度の実績までは、前期基本計画で定めたむらづくり指標を用いています。	目標値							
	実績							
	達成度							
むらづくり指標の達成度	目標値							
	実績							
	達成度							
	目標値							
	実績							
	達成度							
	目標値							
	実績							
	達成度							
	目標値							
	実績							
	達成度							

個別施策名	方向性	個別施策名	方向性
		各基本施策に属する個別施策名を記載しています。	事務事業評価(1次、2次)の結果を踏まえ、個別施策単位で、今後の方向性について評価しています。
※方向性: 拡大・拡充/維持・継続/縮小・統合/次年度以降検討ノ-			

全体総括	2次評価、むらづくり指標の達成度、個別施策の評価を踏まえて、基本施策を全体的に評価し、今後どのような方向性で取り組むべきか、または施策の目標を効果的・効率的に達成するための考え方や方針等を記載しています。	総合評価	基本施策に対する総合的な評価 A 目標に向け順調に進んでいる B 目標に向けある程度進んでいる C 目標より遅れているため見直しが必要の3段階で評価しています。

基本目標	1 希望に満ち、子どもたちが健やかに育つむらづくり
施策コード	1-3
基本施策	子育て支援の充実

主担当課	福祉課
関連課名	企画政策課

現状と課題	<p>○人口減少時代が本格化する中で、全国的に少子高齢化が進行しています。少子化の要因として、未婚化・晩婚化・晩産化と合わせ、子育てにかかる精神的・経済的負担感の増大が挙げられており、負担感の軽減を図っていく必要があります。</p> <p>○村では、育児不安の解消や社会的孤立の防止に向け、子育て家庭同士の交流の場づくりや各種相談支援等を実施しています。今後は、地域における多様な主体によるきめ細かな子育て支援活動の活性化を図っていく必要があります。</p> <p>○ひとり親家庭や経済的に困窮している世帯など、さまざまな困難を抱えている子育て家庭が増えてきており、子どもの健やかな成長と社会的、経済的自立に向けた支援の充実を図っていく必要があります。</p>
-------	--

むらづくり指標の達成度	指標名		単位	初期値(H27)	H29	H30	R元	R2	R3	R4
	出会いの場創出事業におけるカップル成立件数	目標値	組	40	40	40	40	40	40	40
	実績	32		39	39	52	0	10	11	
	達成度	80.0%		97.5%	97.5%	130.0%	0.0%	25.0%	27.5%	
子ども・子育て支援センター機能	目標値	-	設置	設置	設置	設置	設置	設置	設置	設置
	実績		未設置	未設置	未設置	設置	設置	設置	設置	
	達成度		0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
乳幼児医療費助成(国保繰出金含む)	目標値	千円	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000	
	実績		50,549	49,014	40,738	40,902	27,288	34,506	33,324	
	達成度		104.8%	108.1%	130.1%	129.6%	194.2%	153.6%	159.0%	
児童医療費助成(国保繰出金含む)	目標値	千円	70,500	70,500	70,500	70,500	70,500	70,500	70,500	
	実績		70,726	71,101	60,231	57,853	49,665	53,259	53,763	
	達成度		99.7%	99.2%	117.0%	121.9%	142.0%	132.4%	131.1%	
児童クラブ入会児童数	目標値	人	300	300	300	300	300	300	300	
	実績		274	322	380	369	368	401	415	
	達成度		91.3%	107.3%	126.7%	123.0%	122.7%	133.7%	138.3%	
ひとり親家庭医療費助成	目標値	千円	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	
	実績		3,626	3,724	4,650	3,750	3,772	4,652	4,345	
	達成度		99.3%	96.7%	77.4%	96.0%	95.4%	77.4%	82.9%	
	目標値									
	実績									
	達成度									
	目標値									
	実績									
	達成度									

個別施策の評価	個別施策名		方向性	個別施策名		方向性
	1-3-1	出会いの場の創出と結婚支援	拡大・拡充	1-3-5	児童虐待防止対策の充実	維持・継続
1-3-2	地域における子育て支援の充実	維持・継続				
1-3-3	子どもの居場所づくり	維持・継続				
1-3-4	ひとり親家庭への支援	維持・継続	※方向性: 拡大・拡充/維持・継続/縮小・統合/次年度以降検討/ー			

全体総括	<p>むらづくり指標の「医療費助成」については、ほぼ横ばいで推移しているが、「乳幼児」と「児童医療費助成」は目標を達成できている。一方、「ひとり親家庭医療費」については、目標を下回った状況が続いている。</p> <p>指標には無いが、子育て支援については、出産祝い金や入学祝い金の支給、修学旅行費の補助など新たな事業が始まり、支援の充実が図られている。今後は、少子化対策として結婚支援について具体的な取り組みが必要である。</p>
------	---

総合評価	A
	目標に向け順調に進んでいる

基本目標	2 自らを高め、共にによりよく生きるむらづくり
施策コード	2-3
基本施策	教育環境の整備

主担当課	学校教育課
関連課名	

現状と課題	<p>○学校は、子どもたちが1日の大半を過ごす場であり、安心して勉強できる環境の整備と合わせ、防災対策や不審者対策などにより、子どもたちの安全を確保していく必要があります。</p> <p>○国際化・情報化社会の進展、気象の変化など、社会環境の変化に伴い、学校に求められる教育ニーズや安全対策も変化しています。また、老朽化してきている施設・設備もみられることから、それらに対応するための計画的な教育環境の整備を進めていく必要があります。</p> <p>○学校は、地域の核となる拠点でもあるため、開かれた学校づくりを進めることにより、学校施設の有効活用と適正管理に努めていく必要があります。</p> <p>○ひとり親家庭や生活困窮世帯等の子どもは、経済的な理由により、希望する進学をあきらめざるを得なかったり、学習意欲を持つことができなかったりする場合があります。世代間の貧困の連鎖を防ぐためにも、就学にかかる経済的支援の充実が求められています。</p>
-------	---

指標名	単位	初期値 (H27)	H29	H30	R元	R2	R3	R4	
		目標値	30	30	30	30	30	30	30
指導主事・学校教育推進員の派遣回数	回	実績	26	48	44	70	58	94	95
		達成度	86.7%	160.0%	146.7%	233.3%	193.3%	313.3%	316.7%
		目標値	3.50	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5
学校評価「施設整備」分野への評価	点	実績	3.36	3.32	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3
		達成度	96.0%	94.9%	93.1%	94.3%	94.3%	94.3%	94.3%
		目標値	10	10	10	10	10	10	10
奨学金制度の利用者数	人	実績	3	6	7	13	14	2	7
		達成度	30.0%	60.0%	70.0%	130.0%	140.0%	20.0%	70.0%
		目標値							
むらづくり指標の達成度		実績							
		達成度							
		目標値							
		実績							
		達成度							
		目標値							
		実績							
		達成度							
		目標値							
		実績							
		達成度							
		目標値							

個別施策名	方向性	個別施策名	方向性
		2-3-1 安全・安心な学校づくり	維持・継続
2-3-2 教職員の資質の向上	維持・継続		
2-3-3 計画的な施設・設備の更新	維持・継続 (一部完了)		
2-3-4 安全な通学の確保	維持・継続	※方向性: 拡大・拡充/維持・継続/縮小・統合/次年度以降検討/ー	

全体総括	<p>教育環境の整備については、引き続き、重点的に取り組んでいく必要がある。特に、施設面においては老朽化や児童・生徒数の変動に伴う施設更新や改修をどうするのか、近い将来に備えて早急に計画をまとめなければならない。</p> <p>また、ICT環境が急速に整備されたため、これを有効活用し、学力向上につながる取り組みが必要である。</p> <p>奨学金については、家庭の経済的理由により教育の機会が失われることのないよう、成績優秀者には給付型奨学金の検討も必要である。</p>
------	--

総合評価	A
目標に向け順調に進んでいる	

基本目標	3 活力ある、交流とふれあいのむらづくり
施策コード	3-1
基本施策	農林業の振興

主担当課	産業振興課
関連課名	農業委員会事務局

現状と課題	<p>○農産物市場のグローバル化が一層進み、競争力の高い農産物の生産が求められています。また、米価の下落や担い手の高齢化など農業を取り巻く環境は厳しさを増しており、農業経営基盤の強化を図り、農家の所得向上・安定化につなげていくことが求められます。</p> <p>○東日本大震災に伴う原子力発電所の事故による県内の農産物に対する風評被害が本村の農業にも影響を与えてきましたが、これまでの取り組み等により、徐々に回復しつつあります。</p> <p>○村では、農業用排水路をはじめ農業生産基盤の強化に取り組むとともに、有機栽培生産支援や耕畜連携の推進等、安心・安全な農産物の生産を促進しています。今後も、生産経営基盤の強化を図りつつ、付加価値の高い農業づくりに取り組んでいく必要があります。</p> <p>○林業では、原発事故により森林の荒廃が懸念されていることから、森林の生産活動の活性化と多面的機能の維持を図ることを目的として森林整備や木材利用の促進を図っています。引き続き森林再生に取り組むことで、森林環境・水環境の保全と有効活用につなげていく必要があります。</p>
-------	--

指標名	単位	初期値 (H27)	H29	H30	R元	R2	R3	R4	
		目標値	75	75	75	75	75	75	75
耕畜連携による参加農家数	人	実績	67	62	68	70	70	65	58
		達成度	89.3%	82.7%	90.7%	93.3%	93.3%	86.7%	77.3%
		目標値	150	150	150	150	150	150	150
認定農業者数	人	実績	135	142	148	147	129	123	123
		達成度	90.0%	94.7%	98.7%	98.0%	86.0%	82.0%	82.0%
		目標値	3	3	3	3	3	3	3
組織経営体数	組織	実績	2	1	1	1	1	1	1
		達成度	66.7%	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%
		目標値	80	80	80	80	80	80	80
直売所出品者数	人	実績	60	97	258	301	327	341	355
		達成度	75.0%	121.3%	322.5%	376.3%	408.8%	426.3%	443.8%
		目標値	22,000	22,000	22,000	22,000	22,000	22,000	22,000
直売所販売金額	千円	実績	5,500	9,170	130,107	159,304	193,068	213,709	240,290
		達成度	25.0%	41.7%	591.4%	724.1%	877.6%	971.4%	1092.2%
		目標値	35	35	35	35	35	35	35
森林整備面積	ha	実績	32	35	40	29	28	45	42
		達成度	91.4%	100.0%	114.3%	82.9%	80.0%	128.6%	120.0%
		目標値	150	150	150	100	150	150	150
松くい虫被害木処理材積	m ³	実績	106	105	135	117	118	100	54
		達成度	70.7%	70.0%	90.0%	117.0%	78.7%	66.7%	36.0%
		目標値							

個別施策名	方向性	個別施策名	方向性
		3-1-1 生産基盤の整備	維持・継続 (一部完了)
3-1-2 担い手の確保・経営強化	拡大・拡充	3-1-6 森林の保護・活用	維持・継続 (一部完了)
3-1-3 循環型農業の推進	拡大・拡充		
3-1-4 6次産業化の推進	維持・継続	※方向性: 拡大・拡充/維持・継続/縮小・統合/次年度以降検討/ー	

全体総括	<p>直売所(まるごと西郷館)での出品者数、販売金額は、大きく伸びたが、それ以外のむらづくり指標については横ばい、または減少となった。</p> <p>農林業の振興については、従事者が高齢化していることもあり、農地の維持管理は困難になってきていることから、個人向けの支援である後継者、新規農業者対策だけでなく、経営の集団化に重きを置いて事業を展開することも必要である。</p> <p>また、近年、有害鳥獣問題も顕著化しており、早めの対策を要している。</p> <p>森林についても、原発事故による荒廃や太陽光発電による開発により、生産活動面積が減少していることから、森林の持つ多面的機能の維持を図るための施策も必要である。</p>
------	--

総合評価	A
目標に向け順調に進んでいる	

基本目標	4 快適に暮らし、利便性の高いむらづくり
施策コード	4-1
基本施策	道路・公共交通の整備

主担当課	建設課
関連課名	企画政策課

現状と課題	<p>○本村は、新幹線停車駅と高速道路のインターチェンジがともに立地する唯一の村であり、また、村内には国道4号が南北に、国道289号が東西に横断するなど、広域高速交通網が大きな強みとなっています。</p> <p>○高度経済成長期に整備された道路・橋梁の老朽化が進み、維持管理及び長寿命化の重要性が高まっています。整備には大きな財政負担がかかることから、安全な道路の確保に向けて、適切なアセットマネジメントによる維持管理を行っていく必要があります。</p> <p>○高齢者など公共交通に頼らざるを得ない村民の交通手段の確保が重要な課題のひとつとなっています。地域における移動特性を踏まえつつ、既存の移送サービスにおける柔軟な運用も含め、多様な主体、事業者等による移動ネットワークを再構築していく必要があります。</p>
-------	--

むらづくり指標の達成度	指標名		単位	初期値(H27)	H29	H30	R元	R2	R3	R4
	路線バス利用者数	目標値	千人		48	48	48	48	48	48
実績				46	42	40	39	32	31	31
達成度				95.8%	87.5%	83.3%	81.3%	66.7%	64.6%	64.6%
歩道設置延長数	目標値	Km		50.0	48.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
	実績			48.5	48.4	48.4	48.4	48.5	50.2	51.7
	達成度			97.0%	100.8%	96.8%	96.8%	97.0%	100.4%	103.4%
歩道除雪隊登録数	目標値	団体		15	15	15	15	15	15	15
	実績			12	16	17	18	20	23	21
	達成度			80.0%	106.7%	113.3%	120.0%	133.3%	153.3%	140.0%
	目標値									
	実績									
	達成度									
	目標値									
	実績									
	達成度									
	目標値									
	実績									
	達成度									
	目標値									
	実績									
	達成度									

個別施策の評価	個別施策名		方向性	個別施策名		方向性
	4-1-1	計画的な道路整備の推進	維持・継続 (一部完了)	4-1-5	公共交通網の再編	維持・継続 (一部縮小)
4-1-2	生活道路の安全確保	維持・継続				
4-1-3	除雪体制の強化	維持・継続				
4-1-4	道路の長寿命化	維持・継続	※方向性: 拡大・拡充/維持・継続/縮小・統合/次年度以降検討/ー			

全体総括	<p>道路整備については、計画的に整備を行っており、また、行政区からの要望があった修繕箇所についても事故に繋がらないよう速やかに対応してきたところである。</p> <p>今後は、道路・橋梁など改修等には膨大な予算がかかることから、長寿命化計画に基づき、さらに計画性をもって整備を図っていくことが必要である。</p> <p>一方、路線バスの利用者が年々減少していることから、路線バスの一部廃止も視野に公共交通網再編の必要性が高まっている。現在、基幹的なバス路線のほか、デマンド型の乗合交通を運行しているところであり、特に交通弱者と言われる地域の方、高齢者の方々にとっての移動手段として、両事業のバランスをとった運行を図っていく必要がある。</p>
------	--

総合評価	A
目標に向け順調に進んでいる	

基本目標	6 自然と共生し、環境にやさしいむらづくり
施策コード	6-1
基本施策	自然環境の保全

主担当課	環境保全課
関連課名	

現状と課題	<p>○豊かな自然に対する村民の要求度は高く、多くの村民がむらの将来像として豊かな自然と共生した美しい環境を望んでいます。豊かな自然は貴重な観光資源でもあり、地域の財産として次代に引き継いでいく必要があります。</p> <p>○地球温暖化をはじめ環境保護の問題は全世界で取り組むべき課題となっており、国民の環境意識も高まってきております。今後も一人ひとりの意識向上と具体的な行動を促しながら、自然環境の保護及び環境負荷の軽減に向け、村民・事業者・行政が一体となって計画的に取り組んでいく必要があります。</p> <p>※令和2年度の一斉清掃については、新型コロナウイルスの感染拡大防止により、令和2年5月20日西郷村保健委員会理事会において中止となった。</p>
-------	---

指標名	単位	初期値 (H27)	H29	H30	R元	R2	R3	R4
		目標値	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
一斉清掃に参加した村民の人数	実績	4,500	5,300	4,362	4,977	0	4,121	4,731
	達成度	75.0%	88.3%	72.7%	83.0%	0.0%	68.7%	78.9%
むらづくり指標の達成度								

個別施策名	方向性	個別施策名	方向性
		6-1-1 環境保全活動の活性化	拡大・拡充
6-1-2 環境教育の推進	維持・継続		
※方向性: 拡大・拡充/維持・継続/縮小・統合/次年度以降検討/ー			

全体総括	<p>西郷村の美しい自然環境は、次世代へ引き継がなければならない貴重な財産であるので、一斉清掃だけでなく、各企業や村民が自発的に保全できるよう、啓発活動や助成制度を創設するなど、新たな事業の展開が必要である。そのためにも、西郷村地球温暖化対策実行計画の取り組みと環境教育の推進が重要である。</p>
------	---

総合評価
B
目標に向けある程度進んでいる

基本目標	7 安全が守られ、災害に強いむらづくり
施策コード	7-1
基本施策	防災対策・消防体制の充実

主担当課	防災課
関連課名	

現状と課題	<p>○平成23年3月に発生した東日本大震災以降も、各地で震災や台風等の大雨による土砂災害が全国で相次いで発生しているほか、竜巻による被害が発生している地域も見られており、これまで以上に自然災害に対するリスクが高まっています。</p> <p>○防災・復旧における地域住民の力が再認識され、東日本大震災では、普段からのコミュニティが災害復旧の大きな力になりました。一方、少子高齢化の進行等により地域活動を担う村民の高齢化が進み、また、消防団員の確保が厳しい状況にあります。自分の地域は自分たちで守る意識の醸成を図りつつ、担い手の確保に努めていく必要があります。</p> <p>○村では、平成10年8月の集中豪雨災害及び平成23年3月の東日本大震災の経験を踏まえ、防災対策における組織体制の明確化等に取り組むとともに、消防団の充実強化を図っています。今後も、さまざまな災害に対応するための体制強化や減災に向けた取り組みを推進していく必要があります。</p> <p>○災害時には、村民の適切な避難行動を促すためにも、迅速かつ確かな情報を伝えることが重要です。避難勧告・指示の的確な判断と防災情報が確実に村民に伝わる伝達体制の再構築を図っていく必要があります。</p>
-------	--

指標名	単位	初期値 (H27)	H29	H30	R元	R2	R3	R4
消防団員数	人	330	330	330	330	330	330	330
		310	304	297	282	270	265	266
		93.9%	92.1%	90.0%	85.5%	81.8%	80.3%	80.6%
消防力充足率	%	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
		86.0	86.0	86.0	84.0	84.0	84.0	84.0
		95.6%	95.6%	95.6%	93.3%	93.3%	93.3%	93.3%
自主防災組織率	%	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0
		59.0	59.0	59.0	59.0	59.0	59.0	59.0
		90.8%	90.8%	90.8%	90.8%	90.8%	90.8%	90.8%
消防水利の充足率	%	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0
		89.0	91.5	92.6	92.6	93.0	93.0	93.0
		96.7%	99.5%	100.7%	100.7%	101.1%	101.1%	101.1%
防災行政無線の再構築	方式	デジタル	デジタル	デジタル	デジタル	デジタル	デジタル	デジタル
		アナログ	アナログ	アナログ	アナログ	デジタル	デジタル	デジタル
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	
災害協定の締結	件	23	23	23	23	23	23	23
		20	22	22	22	26	29	29
		87.0%	95.7%	95.7%	95.7%	113.0%	126.1%	126.1%
防災備蓄倉庫の設置	棟	2	2	2	2	2	2	2
		1	1	1	1	1	1	1
		50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%
むらづくり指標の達成度		目標値						
		実績						
		達成度						

個別施策名	方向性	個別施策名	方向性
7-1-2 情報伝達体制の再構築	維持・継続	7-1-6 消防体制の強化	維持・継続
7-1-3 防災拠点・設備の整備	維持・継続	7-1-7 地域における防災活動支援	維持・継続
7-1-4 治山・治水対策	維持・継続	※方向性: 拡大・拡充/維持・継続/縮小・統合/次年度以降検討/ー	

全体総括	<p>近年、自然災害が頻発し、毎年のように日本各地で甚大な被害をもたらしている。村民の生命・財産を守るためにも消防団の果たす役割は重要であるが、「消防団員数」、「消防力充足率」において、目標が達成されていない状況である。自主防災組織の取り組みと併せ、早急に改善する必要がある。</p> <p>また、災害情報伝達システムが整備されたことから、正確な情報が必要としている人に確実に届くようにすることと避難所の設置が適切に行われ、災害が発生したとしても被害を最小限に抑えることが重要である。</p>
------	--

総合評価	A
目標に向け順調に進んでいる	

